

# むーぶ



**お知らせ号 2014.9 (第53号)**

**発行：坂井市社会福祉協議会**

## 【予定】

- 共同募金開始式 アルプラザ アミ  
10月 1日 (水) 午前9時30分
- みくに支部福祉委員会  
10月 2日 (木) 午後7時30分
- さかい支部「一人暮らし高齢者交流会実行委員会」10月 3日 (金) 午後7時30分
- さかい支部共同募金街頭募金活動  
(支部社協委員・理事・評議員・  
共同募金委員等)  
10月 5日 (日) いねす前 午前8時  
プラント2前 午前9時  
10月 6日 (月) JR丸岡駅午後6時10分
- みくに支部社協委員会  
10月 6日 (月) 午前11時30分
- みくに支部共同募金打ち合わせ  
(民生委員・支部社協委員・理事・評議員  
共同募金委員等)  
10月 6日 (月) 午後1時30分
- 介護予防実践団体連絡会  
10月 7日 (火) 午後1時30分
- ボランティア交流会「災害ボラ研修」  
10月 8日 (水) 午後7時
- 生活・介護支援サポーター養成講座修了式  
10月10日 (金) 午前9時30分
- 広報委員会  
10月10日 (金) 午前11時
- 生活福祉資金・生活助け合い審査会  
10月10日 (金) 午後1時30分
- 丸岡古城まつりにて共同募金活動PR  
10月12日 (日) 午後3時



## 『あい愛まつり』のプロデュースにチャレンジ

福祉の啓発を目的に開催するあい愛まつりの企画をいっしょにしませんか。

対 象 市内在住又は勤務されている方2名

★10月17日 (金) までにみくに支部 82-1170へ

## 【報告】

### 【支部社協連絡会の開催】

- ⇒ 9月3日、4支部社協の正副委員長及び各支部担当理事及び三役も同席し、開催しました。第1期2年間の振りかえりと、基礎組織及びまち協との関係など課題山積の現状も確認しました。(裏面)

### 【生活・介護支援サポーター養成講座開催】

- ⇒ 9月5日 (金) から5回シリーズで、31名の受講生で開始。修了後はサポーターとして、高齢者宅を定期的に訪問し、見守りや話し相手などご協力いただきます。

### 【理事会及び評議員会の開催】

- ⇒ 9月16日 (火) 理事会、9月29日 (月) 評議員会を開催し、10月から地域包括支援サブセンター受託に伴う、定款の一部改正の承認を得ました。

### 【共同募金委員会開催】

- ⇒ 共同募金委員会を、9月16日 (火) 本部で開催し、10月から開始となる募金活動について協議しました。

### 【つながれボランティアの輪推進事業キャラバン隊到着 本部】

- ⇒ 9月26日 (金) 県社協「つながれボランティアの輪推進運動」の開始5周年を記念して県内の17市町の社協を訪問するキャラバンがスタートしました。当日は、元世界ボクシング協会WBA世界王者の清水智信名誉隊長から坂井市社協ボランティア・市民活動センターの佐々本泰秀委員長に「たすき」が渡されました。たすきには、それぞれの隊長の一文字が、表され、清水名誉隊長の「**動**」は、ボランティアは動くことでボランティアの意味を発見し、佐々本委員長は、ボランティア活動のひとつ、ひとつが光っている尊いものであると考え「**光**」一文字を表しました。

## 26年度 支部社協連絡会のご報告 平成26年9月3日（水）本部にて

2期目の支部社協委員会の大きな役割は「基礎組織づくり」の推進と側面的な支援となっています。

4支部の歴史的な背景など異なるため、各支部にて継続協議しながら取り組むことが大事となります。今回の連絡会では特に基礎組織づくりの取り組み状況や課題などを共有・情報交換しました。



A グループ

### 【内容】

吉田社協会長挨拶に続き、各委員長から第1期の成果と課題の報告があり、4支部社協の基礎組織づくりの取り組みの現状について協議がされました。

その後、3つのグループにて情報交換会が行われて、最後に全体会にて情報共有がなされました。

その地区に適した“いい方法”を大切にしながら、まちづくり協議会などの関係機関と充分連携を図

って、基礎組織づくりを進めていきます。

### 【情報交換会で出された主なご意見 抜粋】

#### ●基礎組織づくり、まち協との関係

- ・公民館以下の単位で基礎組織づくりを進めているが、区長・民生委員・福祉委員の三者が密に連携取り合いながら、細かなニーズ（困りごと）を拾っていくことが大事です。
- ・まち協に加入するか。独自で組織をつくるかは地区により異なるため統一はできないことです。

- ・公民館単位では、地域密着型の福祉活動は、大きすぎるのではないのでしょうか。



B グループ



C グループ

#### ●見守りネットワーク活動など

- ・一人暮らし高齢者宅などを見守るために作成している福祉マップを十分活用していくことが大事です。（災害時など防災に向けても活用できるのではないのでしょうか）

- ・福祉関係者間でマップを作る過程で浮かび上がる問題について、みんなで話し合うことが大事であり、この過程が地域把握につながります。

- ・高齢者がお客さんでなく主体的に参加できるサロンづくりがコツです。（引きこもりがちな男性にいかに参加してもらうかが課題です）